再評価結果（平成１６年度事業継続箇所）

担　当　課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島　威夫

事業名	地域高規格道路「空港津山道路」 一般国道５３号岡山北バイパス	事業区分	一般国道 (二次改築)	事業主体	中国地方整備局
起終点	自：岡山県岡山市津島 至：岡山県御津郡御津町中山			延長	１０．５km

事業概要

空港津山道路は、広域交通拠点である岡山空港から津山市に至る延長約６０kmの地域高規格道路である。
岡山北バイパスは、地域高規格道路「空港津山道路」の一部を構成する延長１０．５kmの道路である。

Ｓ４９年度事業化	Ｓ３３、Ｓ５０、Ｈ元年度都市計画決定	Ｓ５５年度用地着手	Ｓ６１年度工事着手

全体事業費	約　５９０億円	事業進捗率	約８０％	供用済延長	８．７km
計画交通量	６３，５００台／日				

費用対効果分析結果	B／C	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) ５．０ (残事業) ２．３	１２１/９３４　億円 事　業　費：88 /814 億円 維持管理費：32 /120 億円	２７３/４,７０４　億円 走行時間短縮便益：256 /4338億円 走行費用減少便益： 11 / 285億円 交通事故減少便益： 6 / 81億円	平成１５年

事業の効果等

・円滑なモビリティの確保（岡山空港へのアクセス向上が見込まれる）
・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路「空港津山道路」の一部を構成）
他１８項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

岡山北バイパスの整備により、国道５３号の交通の円滑化が図られるとともに、市民生活の快適化と沿道の活性化が期待されることから、岡山市をはじめとする２市１３町２村から構成される空港津山道路整備促進協議会などより早期整備の要望を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

大規模商業施設、団地等の開発ならびに岡山空港の開港、国立病院の開院などにより交通量が増大し、慢性的な交通混雑や交通事故の多発が生じている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・段階的な整備を進め、現在までに８．７kmを供用（一部暫定）している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

投資効果の早期発現を図るため段階的な整備を図ってきた。残る区間については早期全線供用を目指し、事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

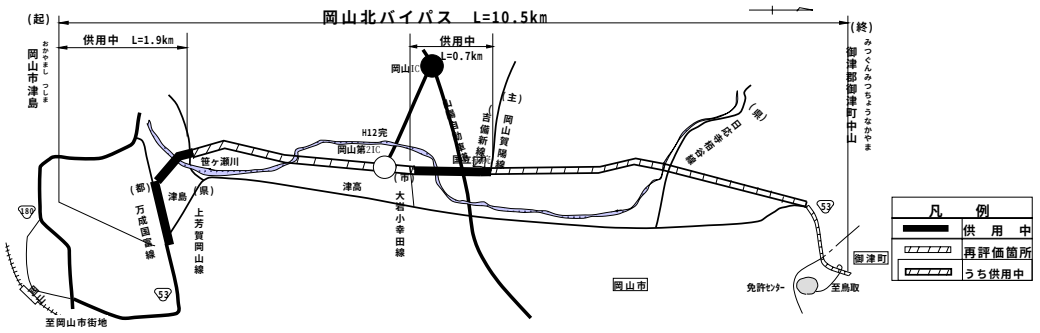
・偏平なトンネル断面を採用し、内空断面を縮小することにより、コスト縮減が可能と考える。
・建設副産物の発生抑制や再生材利用等により、コスト縮減に努めている。

対応方針　事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※　総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。